

【プレゼンテーション資料】

**2014年度中間期 連結業績 および
ソニー生命の2014年9月末MCEV**

ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社
2014年11月14日

Sony Financial Holdings Inc. All Rights Reserved

＜ネットカンファレンス(電話会議)による決算説明会＞

日時：2014年11月14日(金) 15:30～16:30

内容：「2014年度中間期 連結決算説明会」

発表者：ソニーフィナンシャルホールディングス
専務取締役 渡辺 寛敏

ソニーフィナンシャルホールディングス
渡辺 でございます。

ただ今より、お手元のプレゼンテーション資料に沿って、当社グループの
2014年度中間期 連結業績についてご説明いたします。

スライド4をご覧ください。

| | |
|--|------|
| ■ 2014年度中間期連結業績 | P.3 |
| ■ 2014年度連結業績予想 | P.28 |
| ■ ソニー生命の2014年9月末MCEV および 経済価値ベースのリスク量 | P.30 |
| ■ 参考情報 | P.33 |

免責事項:

このプレゼンテーション資料に記載されている、ソニーフィナンシャルグループの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、過去の事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「想定」、「予測」、「予想」、「目的」、「意図」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されません。口頭または書面による見通し情報は、広く一般に開示される他の媒体にも度々含まれる可能性があります。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られたソニーフィナンシャルグループの経営者の仮定、決定ならびに判断に基づいています。実際の業績は、多くの重要なリスクや不確実な要素により、これら業績見通しと大きく異なる結果となりうるため、これら業績見通しのみで全面的に依拠することは控えるようお願いします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、ソニーフィナンシャルグループが将来の見通しを見直して改訂するとは限りません。ソニーフィナンシャルグループはそのような義務を負いません。また、このプレゼンテーション資料は日本国内外を問わずいかなる投資勧誘またはそれに類する行為のために作成されたものでもありません。

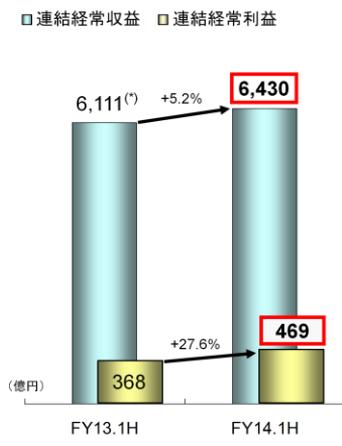
※本資料掲載情報は、特に記載のない限り、数値は表示単位未満は切捨て、比率や増減率は四捨五入で表示しています。

また、増減率が1,000%を超える場合や比較対象の一方もしくは両方がマイナスの場合は「-」表示しています。

※「ライフプランナー」はソニー生命の登録商標です。

2014年度中間期連結業績

連結業績ハイライト①



(*) 当年度より、銀行事業のヘッジ取引にかかる経常収益と経常費用の計上方法の変更を行ったことにより、前年度の経常収益についても遡及修正しております。この結果、FY13.1Hの連結経常収益は、6,107億円から6,111億円へ修正しております。なお、この経常収益の修正は、経常費用も同額修正されることにより、経常利益および中間純利益への影響はありません。

| | | (億円) | FY13.1H | FY14.1H | 前年同期比 | |
|---------------------|-------|------|---------|---------|-------|--------|
| 生命保険事業 | 経常収益 | | 5,492 | 5,794 | +302 | +5.5% |
| | 経常利益 | | 302 | 401 | +99 | +32.9% |
| 損害保険事業 | 経常収益 | | 449 | 464 | +15 | +3.4% |
| | 経常利益 | | 28 | 34 | +5 | +19.6% |
| 銀行事業 | 経常収益 | | 183 | 186 | +3 | +1.9% |
| | 経常利益 | | 35 | 32 | △3 | △9.0% |
| セグメント間の内部経常収益・利益(※) | 経常収益 | | △13 | △14 | △1 | — |
| | 経常利益 | | 1 | 1 | △0 | △23.8% |
| グループ連結 | 経常収益 | | 6,111 | 6,430 | +319 | +5.2% |
| | 経常利益 | | 368 | 469 | +101 | +27.6% |
| | 中間純利益 | | 208 | 311 | +102 | +49.3% |

(※) 主として持株会社(連結財務諸表提出会社)に係る損益

| | | (億円) | 14.3末 | 14.9末 | 前年度末比 | |
|--------|-----|------|--------|--------|--------|-------|
| グループ連結 | 総資産 | | 88,413 | 91,202 | +2,788 | +3.2% |
| | 純資産 | | 4,670 | 5,047 | +377 | +8.1% |

(注) 包括利益: FY13.1H …… 135億円、FY14.1H …… 447億円

まず、当社グループの連結業績についてご説明いたします。

連結経常収益は、全ての事業において増加した結果、前年同期に比べ5.2%増加し、6,430億円となりました。

連結経常利益は、銀行事業で減少しましたが、生命保険事業および損害保険事業で増加した結果、前年同期に比べ27.6%増加の469億円となりました。

連結中間純利益は、前年同期比49.3%増の311億円となりました。これは主に、経常利益の増加に加え、2014年度より、ソニー生命において価格変動準備金の積立方針を、従来の積立基準を上回る積み立てから基準積立に変更したためです。

次のスライド5では、各事業の業績要旨を記載しております。後ほどご覧ください。

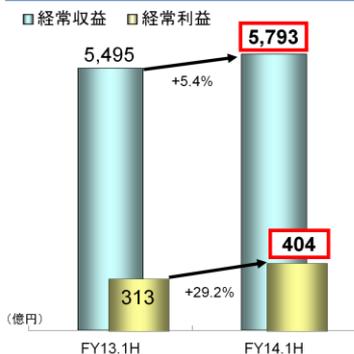
スライド6をご覧ください。

連結業績ハイライト②

<前年同期比分析>

- 生命保険事業: 好調な新契約の獲得により上半期(4月-9月期)としては過去最高の新契約高となり、保有契約高は堅調に推移。経常収益は、保有契約高の堅調な推移により保険料等収入が増加したこと、および一般勘定における利息及び配当金等収入の増加などにより、前年同期に比べ増収。経常利益は、積立利率変動型終身保険における、標準利率改定による減益要因がなくなったこと、および一般勘定における有価証券売却益の増加などにより、前年同期に比べ増益。
- 損害保険事業: 主力の自動車保険を中心に正味収入保険料が増加したことにより、経常収益は前年同期に比べて増収。経常利益は、経常収益の増加に加え、自動車保険の事故率の低下などにより損害率が低下したことから、前年同期に比べて増益。
- 銀行事業: 経常収益は、債券関連取引に係る収益の増加などにより、前年同期に比べ増収。経常利益は、経常収益が増収であったものの、為替相場の変動が大きかった前年同期に比べ顧客の外貨取引が伸びなかったこと、営業経費が増加したことなどにより、前年同期に比べ減益。
- 連結経常収益は、生命保険事業、損害保険事業、および銀行事業のすべての事業で増加した結果、6,430億円(前年同期比5.2%増)。経常利益は、生命保険事業および損害保険事業で増加、銀行事業で減少した結果、469億円(前年同期比27.6%増)。中間純利益は、経常利益の増加に加え、ソニー生命における価格変動準備金の積立方針を変更したことから、311億円(前年同期比49.3%増)。

ソニー生命 業績ハイライト(単体)



- ◆ 前年同期比 増収増益。
- ◆ 保険料等収入は、保有契約高の堅調な推移により、増加。
- ◆ 資産運用収益は、一般勘定における利息及び配当金等収入の増加などにより、増加。
- ◆ 経常利益は、積立利率変動型終身保険における、標準利率改定による減益要因がなくなったこと、および一般勘定における有価証券売却益の増加などにより、増益。
- ◆ 中間純利益は、経常利益の増加に加え、価格変動準備金の積立方針を、従来の積立基準を上回る積み立てから基準積立に変更したことにより、増加。

| (億円) | FY13.1H | FY14.1H | 前年同期比 | |
|--------------|---------|---------|-------|--------|
| 経常収益 | 5,495 | 5,793 | +298 | +5.4% |
| 保険料等収入 | 4,379 | 4,540 | +160 | +3.7% |
| 資産運用収益 | 1,076 | 1,208 | +131 | +12.2% |
| うち利息及び配当金等収入 | 589 | 658 | +69 | +11.7% |
| うち金銭の信託運用益 | 26 | 26 | △0 | △1.1% |
| うち有価証券売却益 | 0 | 38 | +38 | — |
| うち特別勘定資産運用益 | 458 | 464 | +6 | +1.4% |
| 経常費用 | 5,182 | 5,389 | +207 | +4.0% |
| 保険金等支払金 | 1,550 | 1,730 | +179 | +11.6% |
| 責任準備金等繰入額 | 2,940 | 2,936 | △3 | △0.1% |
| 資産運用費用 | 40 | 45 | +4 | +11.8% |
| 事業費 | 558 | 568 | +9 | +1.7% |
| 経常利益 | 313 | 404 | +91 | +29.2% |
| 中間純利益 | 176 | 269 | +92 | +52.3% |

| (億円) | 14.3末 | 14.9末 | 前年度末比 | |
|--------------|--------|--------|--------|--------|
| 有価証券残高 | 59,547 | 62,356 | +2,809 | +4.7% |
| 責任準備金残高 | 61,236 | 64,134 | +2,897 | +4.7% |
| 純資産額 | 3,692 | 4,024 | +332 | +9.0% |
| その他有価証券評価差額金 | 834 | 970 | +135 | +16.3% |
| 総資産額 | 66,249 | 69,591 | +3,342 | +5.0% |
| 特別勘定資産 | 6,405 | 7,020 | +614 | +9.6% |

ソニー生命の業績のハイライトをご説明いたします。

経常収益は、保有契約高の堅調な推移により保険料等収入が増加したこと、および一般勘定における利息及び配当金等収入の増加などにより、前年同期に比べ5.4%増加の5,793億円となりました。

経常利益は、前年同期の積立利率変動型終身保険における、標準利率改定による減益要因がなくなったこと、および一般勘定における有価証券売却益の増加などにより、前年同期に比べて29.2%増加の404億円となりました。

中間純利益は、経常利益の増加に加え、価格変動準備金の積立方針を、従来の積立基準を上回る積み立てから基準積立に変更したことから、52.3%増加の269億円となりました。

スライド7では、ソニー生命の主要業績指標を記載しております。続きまして、スライド8をご覧ください。

ソニー生命 主要業績指標(単体)

| (億円) | FY13.1H | FY14.1H | 増減率 |
|------------|---------|---------|---------|
| 新契約高 | 18,748 | 21,273 | +13.5% |
| 解約・失効高 | 8,764 | 8,625 | △1.6% |
| 解約・失効率 | 2.32% | 2.21% | △0.11pt |
| 保有契約高 | 383,571 | 399,527 | +4.2% |
| 新契約年換算保険料 | 301 | 362 | +20.0% |
| うち第三分野 | 69 | 65 | △5.1% |
| 保有契約年換算保険料 | 6,814 | 7,154 | +5.0% |
| うち第三分野 | 1,650 | 1,697 | +2.9% |

(注) 新契約高、解約・失効高、解約・失効率、保有契約高、新契約年換算保険料、保有契約年換算保険料は、個人保険と個人年金保険の合計。解約・失効率は、契約高の減額または増額および復活を言めない解約・失効高を年度始の保有契約高で除した率。

<主な増減要因>

- ◆ 外貨建保険、変額保険や定期保険の販売好調により、増加。
- ◆ いずれの商品も全体的に低下。
- ◆ 新契約高の増加要因に加え、養老保険や学資保険の販売好調により、増加。

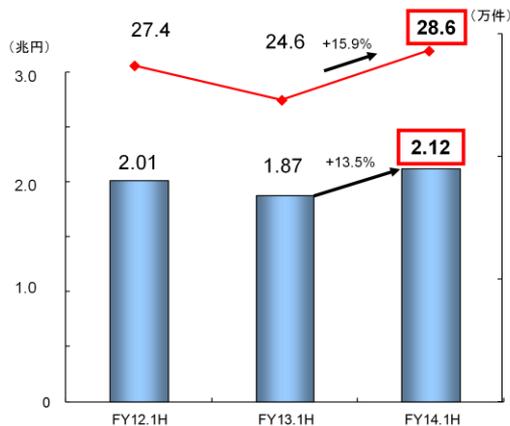
| (億円) | FY13.1H | FY14.1H | 増減率 |
|--------------|---------|---------|--------|
| 資産運用損益(一般勘定) | 577 | 698 | +20.9% |
| 基礎利益 | 335 | 385 | +14.9% |
| 順ざや額 | 33 | 55 | +66.7% |

- ◆ 前年同期の、積立利率変動型終身保険における、標準利率改定による減益要因がなくなったことなどにより、増加。

| | 14.3末 | 14.9末 | 前年度末比 |
|---------------------|----------|----------|----------|
| 単体 ソルベンシー・マージン比率 | 2,358.7% | 2,510.4% | +151.7pt |

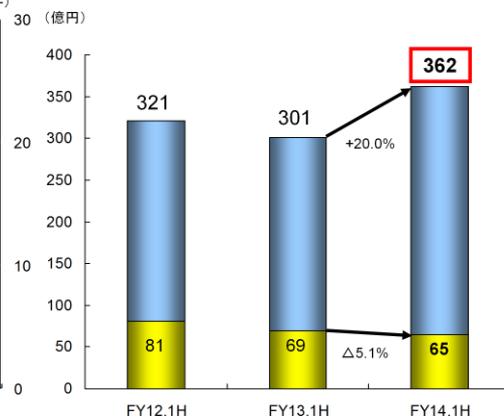
新契約高・件数 (個人保険+個人年金保険)

■ 新契約高 — 新契約件数



新契約年換算保険料 (個人保険+個人年金保険)

■ 新契約年換算保険料 ■ うち、第三分野



(左側のグラフ)

棒グラフで示しております新契約高は、昨年5月に発売した外貨建保険の販売増加に加え、死亡保障強化の取り組みにより、変額保険や定期保険、家族収入保険についても販売が増加しました。これらの結果、前年同期比13.5%増の2兆1,273億円となり、上半期としては過去最高の新契約高となりました。

また、折れ線グラフで示しております新契約件数は、前年同期比15.9%増の28万6千件となりました。

(右側のグラフ)

新契約年換算保険料は、新契約高の増加要因に加え、養老保険や学資保険の販売好調により、前年同期比20.0%増の362億円となりました。

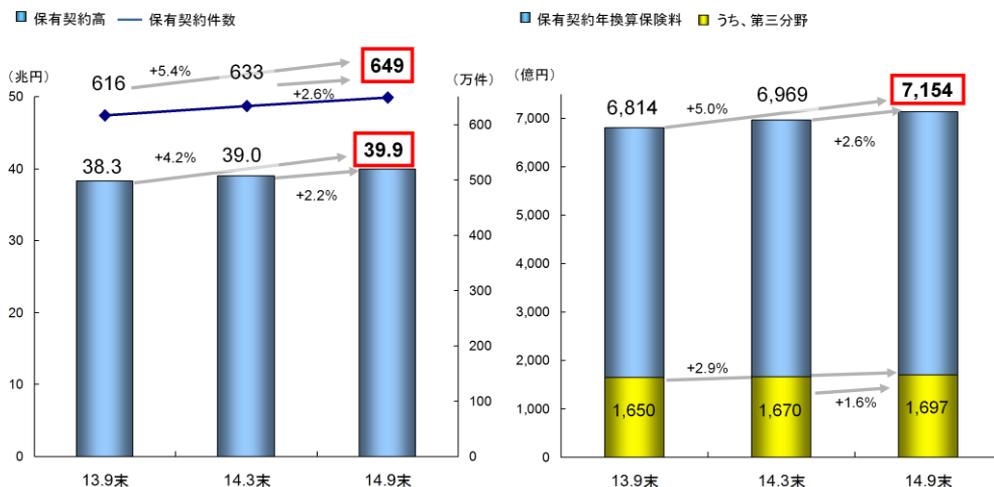
このうち第三分野は、前年同期比5.1%減の65億円となりました。

スライド9をご覧ください。

ソニー生命の業績(単体)②

保有契約高・件数 (個人保険+個人年金保険)

保有契約年換算保険料 (個人保険+個人年金保険)



新契約および解約・失効等を織り込んだ保有契約の状況についてご説明いたします。

(左側のグラフ)

棒グラフで示しております保有契約高は、新契約による増加と良好な解約・失効率により、前年同期末に比べ4.2%増加の39兆9,527億円となりました。

折れ線グラフで示しております保有契約件数は、前年同期末に比べ5.4%増加の649万件となりました。

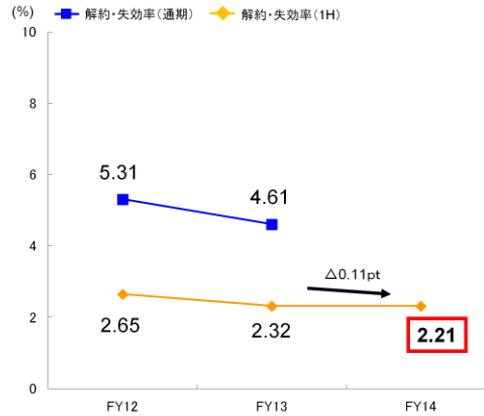
(右側のグラフ)

保有契約年換算保険料は前年同期末に比べ5.0%増加の7,154億円となりました。このうち第三分野は、前年同期末に比べ2.9%増加の1,697億円となりました。

スライド10をご覧ください。

解約・失効率* (個人保険+個人年金保険)

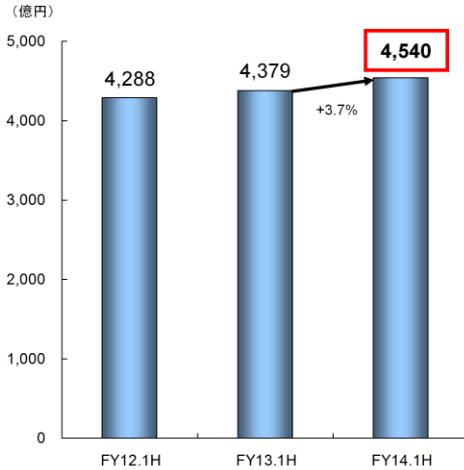
* 解約・失効率は、契約高の減額または増額および復活を含めない
解約・失効高を年度始の保有契約高で除した率



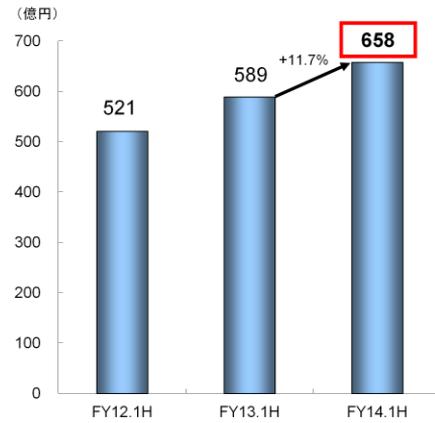
解約・失効率は、いずれの商品も全体的に低下し、前年同期に比べ0.11ポイント低下の2.21%となりました。

続きまして、スライド11をご覧ください。

保険料等収入



利息及び配当金等収入



(左側のグラフ)

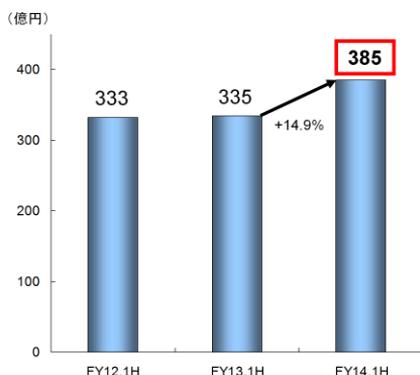
保険料等収入は、保有契約高の堅調な推移により、前年同期に比べ3.7%増加の4,540億円となりました。

(右側のグラフ)

利息及び配当金等収入は、業容拡大による運用資産の拡大にともない、11.7%増加の658億円となりました。

次のスライドをご覧ください。

基礎利益



(ご参考)基礎利益へのインパクト

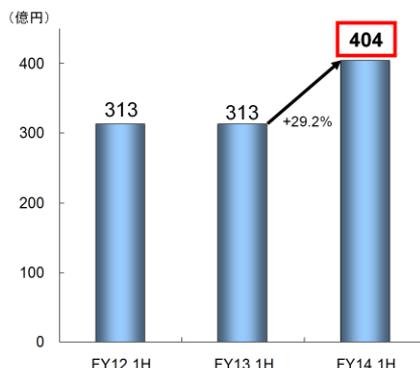
| | (単位:億円) | | |
|-----------------------------|---------|---------|---------|
| | FY12.1H | FY13.1H | FY14.1H |
| 順ざや額 (注1) | △4 | 33 | 55 |
| 変額保険の最低保証に係る責任準備金繰入額(△)(注2) | △40 | △12 | △25 |
| 標準利率改定の影響(注3) | | | |
| 積立利率変動型終身保険関連分 | - | △57 | - |

(注1)順ざや額のマイナスは逆ざや額を表します。

(注2)変額保険の最低保証に係る責任準備金、危険準備金のマイナスは繰入額を表します。

(注3)前年5月に保険料率改定を行った積立利率変動型終身保険における、料率改定前の販売増加による影響額を表します。

経常利益



(ご参考)基礎利益からの主な差異

| | (単位:億円) | | |
|-----------------|---------|---------|---------|
| | FY12.1H | FY13.1H | FY14.1H |
| キャピタル損益 | 1 | △0 | 44 |
| 危険準備金繰入額(△)(注2) | △19 | △21 | △24 |

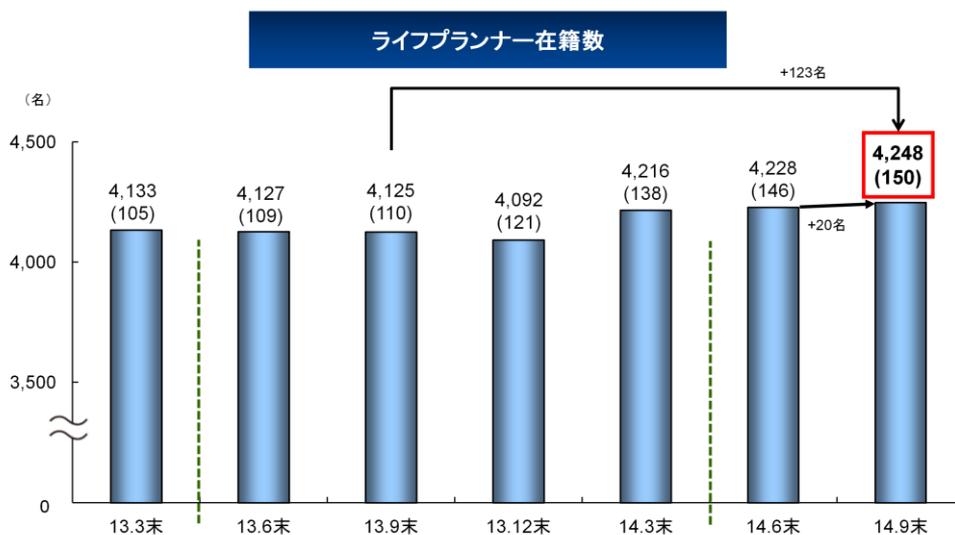
(左側のグラフ)

基礎利益は、前年同期に比べ14.9%増加の385億円となりました。変額保険の最低保証に係る責任準備金繰入額が増加した一方、前年同期の積立利率変動型終身保険における標準利率改定による減益要因がなくなったことや、順ざやが増加したことなどにより増加しました。

(右側のグラフ)

経常利益は、前年同期に比べ29.2%増加の404億円となりました。これは主に、基礎利益の増益要因に加え、一般勘定における有価証券売却益の増加などによるものです。

次のスライドをご覧ください。



(注) ()は、嘱託ライフプランナー数と契約ライフプランナー数の合計で、内数です。
 嘱託ライフプランナーおよび契約ライフプランナーとは、定年退職を迎えた後も、販売状況などの一定の要件を満たすことで、ライフプランナーとしての活動を続けている営業社員です。

ライフプランナー在籍数は、前四半期末から20名、前年同期末から123名増加し、4,248名となりました。

ライフプランナーの採用を担う営業所長登用の積極化など、これまでの採用強化策が奏功し、陣容は着実に増加しています。

スライド14をご覧ください。

一般勘定資産の内訳

| (億円) | 14.3末 | | 14.9末 | |
|------------|--------|--------|--------|--------|
| | 金額 | 割合 | 金額 | 割合 |
| 公社債 | 51,900 | 86.7% | 53,907 | 86.2% |
| 株式 | 332 | 0.6% | 361 | 0.6% |
| 外国公社債 | 798 | 1.3% | 935 | 1.5% |
| 外国株式等 | 269 | 0.4% | 266 | 0.4% |
| 金銭の信託 | 3,053 | 5.1% | 3,088 | 4.9% |
| 約款貸付 | 1,541 | 2.6% | 1,585 | 2.5% |
| 不動産 | 665 | 1.1% | 1,185 | 1.9% |
| 現預金・コールローン | 326 | 0.5% | 359 | 0.6% |
| その他 | 956 | 1.6% | 881 | 1.4% |
| 合計 | 59,843 | 100.0% | 62,570 | 100.0% |

<資産運用状況>

金利リスクの低減を目的として、保険契約の持つ長期の負債特性に合わせて超長期債の購入を継続

〔債券のDuration〕

2013. 3末 19.9年

2014. 3末 19.7年

2014. 9末 19.8年

■「金銭の信託」は主に公社債を中心に運用。

■一般勘定資産における公社債(金銭の信託で運用されているものを含む)の実質的な構成比

2014.9末・・・91.1% (2014.3末・・・91.8%)

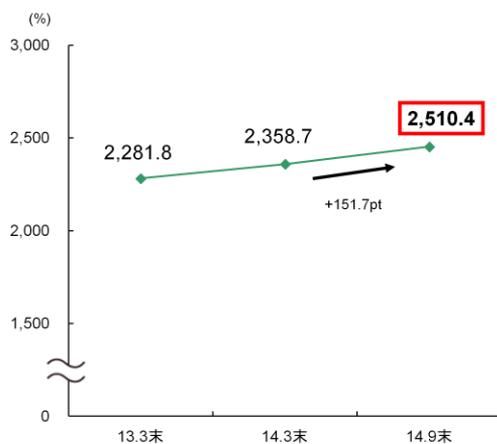
前年度末と比較した、2014年9月末の一般勘定資産の内訳はご覧のとおりです。

引き続き、超長期債への投資を推進し、金銭の信託で運用されている公社債も含めた実質ベースの公社債比率は、2014年9月末で91.1%となりました。

なお、2014年9月にソニー株式会社の本社屋の敷地を取得したことにより、不動産の比率が増加しております。

次のスライド15をご覧ください。

単体ソルベンシー・マージン比率



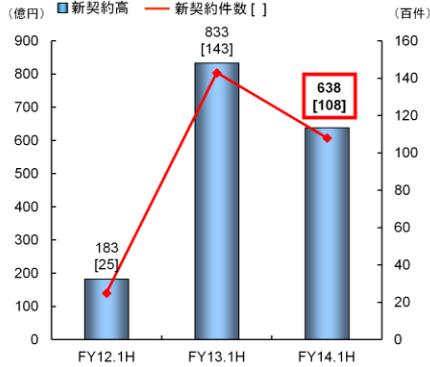
ソルベンシー・マージン比率は、前年度末から151.7ポイント増加の2,510.4%となり、引き続き高い水準を維持しております。

続きまして、スライド16をご覧ください。

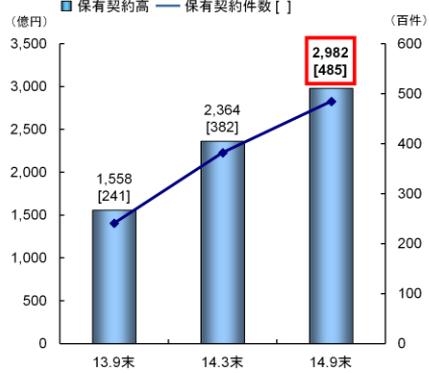
年金事業の業績

(ソニーライフ・エイゴン生命の新契約高及び保有契約高)

新契約高・件数



保有契約高・件数



(ソニーライフ・エイゴン生命およびSA Reinsuranceの中間純利益(△損失))

| (億円) | FY13.1H | FY14.1H | 前年同期比 |
|----------------|---------|---------|-------|
| ソニーライフ・エイゴン生命 | △17 | △24 | △7 |
| SA Reinsurance | 1 | 17 | +16 |

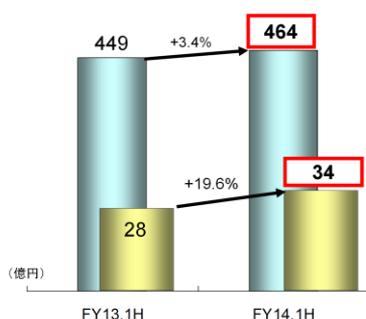
注)ソニーライフ・エイゴン生命とSA Reinsuranceは、ソニー生命とエイゴン・インターナショナルの折半出資(50:50)による合弁会社であり、SFHの持分法適用関連会社です。SA Reinsuranceの業績数値は、米国会計原則に準拠しています。SFHの連結中間純利益には上記の金額に対する持分相当(50%)が反映されています。

変額年金保険を販売しておりますソニーライフ・エイゴン生命の業績についてご説明します。
 新契約高は株式市場の影響を受けて増減がありますが、保有契約高は堅調に推移しており、業容は着実に拡大しております。

次のスライド17からソニー損保の業績についてご説明いたします。

ソニー損保 業績ハイライト

□ 経常収益 □ 経常利益



- ◆ 前年同期比 増収増益。
- ◆ 経常収益は、主力の自動車保険を中心に正味収入保険料が増加したことから、増加。
- ◆ 経常利益は、経常収益の増加に加え、自動車保険の事故率の低下などにより損害率が低下したことから、増益。

| (億円) | FY13.1H | FY14.1H | 前年同期比 | |
|------------|---------|---------|-------|--------|
| 経常収益 | 449 | 464 | +15 | +3.4% |
| 保険引受収益 | 442 | 457 | +14 | +3.3% |
| 資産運用収益 | 5 | 6 | +0 | +5.1% |
| 経常費用 | 420 | 429 | +9 | +2.2% |
| 保険引受費用 | 317 | 320 | +2 | +0.7% |
| 資産運用費用 | 0 | 0 | △0 | △99.7% |
| 営業費及び一般管理費 | 102 | 109 | +7 | +7.0% |
| 経常利益 | 28 | 34 | +5 | +19.6% |
| 中間純利益 | 18 | 23 | +5 | +29.4% |

| (億円) | 14.3末 | 14.9末 | 前年度末比 | |
|---------|-------|-------|-------|--------|
| 責任準備金残高 | 780 | 824 | +44 | +5.6% |
| 純資産額 | 214 | 241 | +27 | +12.8% |
| 総資産額 | 1,427 | 1,494 | +67 | +4.7% |

ソニー損保の経常収益は、主力の自動車保険を中心に正味収入保険料が増加したことから、前年同期比3.4%増加の464億円となりました。

経常利益は、経常収益の増加に加え、自動車保険の事故率の低下などにより損害率が低下したことから、前年同期比19.6%増加の34億円となりました。
中間純利益は、前年同期比29.4%増加の23億円となりました。

スライド18、19では、ソニー損保の主要業績指標、種目別保険引受の状況を記載しております。後ほどご覧ください。

続きまして、スライド20をご覧ください。

ソニー損保 主要業績指標

| (億円) | FY13.1H | FY14.1H | 前年同期比 |
|------------|---------|---------|--------|
| 元受正味保険料 | 436 | 450 | +3.3% |
| 正味収入保険料 | 442 | 457 | +3.3% |
| 正味支払保険金 | 232 | 224 | △3.8% |
| 保険引受利益 | 23 | 28 | +22.8% |
| 正味損害率 | 59.6% | 56.4% | △3.2pt |
| 正味事業費率 | 24.6% | 25.4% | +0.8pt |
| コンバインド・レシオ | 84.2% | 81.8% | △2.4pt |

<主な増減要因>

- ◆ 主力の自動車保険を中心に増加。
- ◆ 正味損害率は、自動車保険の事故率の低下などにより、低下。
- ◆ 正味事業費率は、主にシステム関連費用や契約獲得費用の増加、消費税により上昇。

(注) 正味損害率 = (正味支払保険金+損害調査費)÷正味収入保険料
 正味事業費率 = 保険引受に係る事業費÷正味収入保険料

| | 14.3末 | 14.9末 | 前年度末比 | |
|---------------------|--------|--------|---------|-------|
| 保有契約件数 | 161万件 | 165万件 | +4万件 | +2.7% |
| 単体 ソルベンシー・マージン比率 | 527.6% | 596.3% | +68.7pt | |

(注) 保有契約件数は、自動車保険とガン重点医療保険の合算値。両方で正味収入保険料の99%を占める。

ソニー損保 種目別保険引受の状況

元受正味保険料

| (百万円) | FY13.1H | FY14.1H | 増減率 |
|-------|---------|---------|-------|
| 火 災 | 115 | 119 | +3.3% |
| 海 上 | — | — | — |
| 傷 害 | 4,124 | 4,277 | +3.7% |
| 自 動 車 | 39,391 | 40,671 | +3.2% |
| 自 賠 責 | — | — | — |
| 合計 | 43,632 | 45,069 | +3.3% |

正味収入保険料

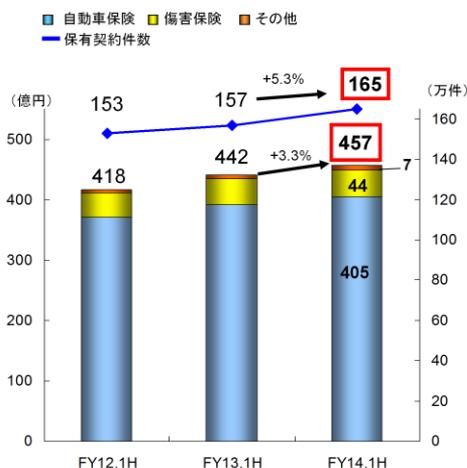
| (百万円) | FY13.1H | FY14.1H | 増減率 |
|-------|---------|---------|--------|
| 火 災 | 82 | 16 | △80.0% |
| 海 上 | 68 | 84 | +22.8% |
| 傷 害 | 4,254 | 4,411 | +3.7% |
| 自 動 車 | 39,264 | 40,568 | +3.3% |
| 自 賠 責 | 608 | 671 | +10.2% |
| 合計 | 44,279 | 45,752 | +3.3% |

正味支払保険金

| (百万円) | FY13.1H | FY14.1H | 増減率 |
|-------|---------|---------|---------|
| 火 災 | 0 | 2 | +340.6% |
| 海 上 | 77 | 73 | △5.0% |
| 傷 害 | 1,010 | 1,128 | +11.7% |
| 自 動 車 | 21,667 | 20,616 | △4.9% |
| 自 賠 責 | 544 | 601 | +10.4% |
| 合計 | 23,299 | 22,420 | △3.8% |

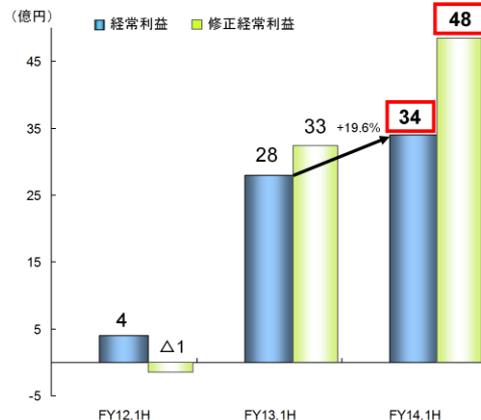
(注)「傷害」にはガン重点医療保険SURE(シェア)が含まれる。

正味収入保険料と保有契約件数



(注) 保有契約件数は、自動車保険とガン重点医療保険の合算値。
両方で正味収入保険料の99%を占める。
傷害保険の9割以上が、ガン重点医療保険である。

経常利益と修正経常利益



※修正経常利益＝経常利益＋異常危険準備金繰入額

(ご参考) 異常危険準備金繰入状況

| | (単位: 億円) | | |
|------------|----------|---------|---------|
| | FY12.1H | FY13.1H | FY14.1H |
| 異常危険準備金繰入額 | △6 | 4 | 14 |

(注) 異常危険準備金繰入額のプラスは繰入額を表します。

(左側のグラフ)

保有契約件数は、自動車保険とガン重点医療保険の合計で、前年同期末比で5.3%増加の165万件となりました。

正味収入保険料は、自動車保険の販売が堅調だったことから、前年同期に比べ3.3%増加し、457億円となりました。

(右側のグラフ)

経常利益は、先のご説明のとおり、損害率の低下により、前年同期に比べて19.6%増加し、34億円となりました。

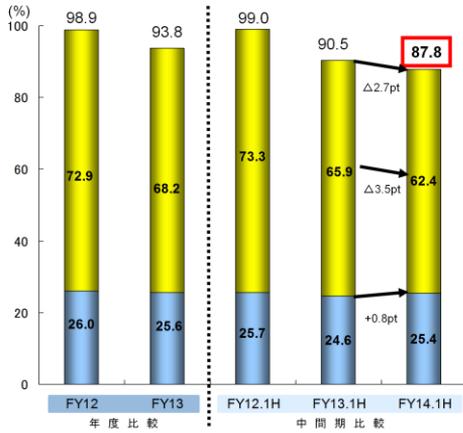
なお、経常利益の他に修正経常利益の数値を載せておりますが、これは経常利益から異常危険準備金繰入・戻入の影響を除いたもので、損益の実態を表すものとして社内で使用している管理指標です。修正経常利益も、48億円と、前年同期から増加しております。

スライド21をご覧ください。

ソニー損保の業績②

E.I.損害率 + 正味事業費率

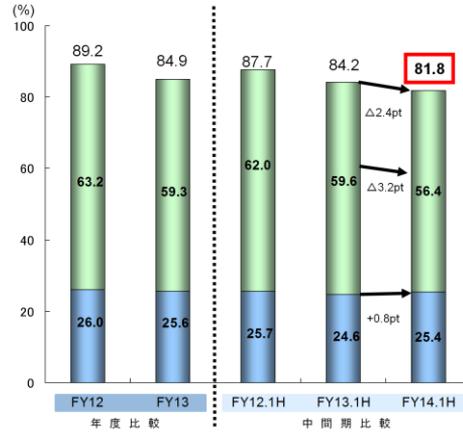
■ E.I.損害率 ■ 正味事業費率



(注) E.I.損害率 = (正味支払保険金+支払備金繰入額+損害調査費)÷既経過保険料
[除く地産保険、自賠責保険]
正味事業費率 = 保険引受に係る事業費÷正味収入保険料

<参考> コンバインド・レシオ (正味損害率 + 正味事業費率)

■ 正味損害率 ■ 正味事業費率



(注) 正味損害率 = (正味支払保険金+損害調査費)÷正味収入保険料
正味事業費率 = 保険引受に係る事業費÷正味収入保険料

(左側のグラフ)

E.I.損害率は、主に自動車保険の料率改定や新ノンフリート等級制度導入による事故率の低下により、前年同期に比べ3.5ポイント低下し、62.4%となりました。正味事業費率は、主にシステム関連費用や契約獲得費用の増加、消費増税により、前年同期に比べ0.8ポイント上昇し、25.4%となりました。

この結果、E.I.損害率と正味事業費率を合わせた合算率は、前年同期に比べ2.7ポイント低下し、87.8%となりました。

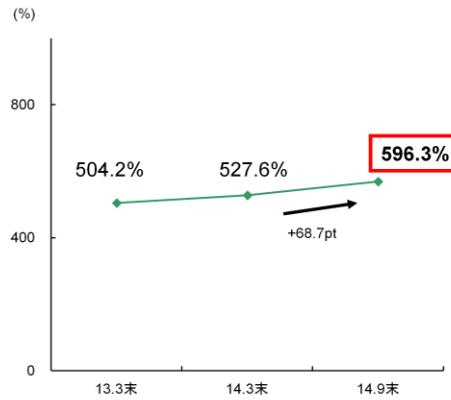
(右側のグラフ)

正味損害率は、前年同期に比べ3.2ポイント低下し56.4%となりました。正味損害率は、支払備金繰入額を反映していないなどの点で、E.I.損害率とは計算方法が異なります。

正味損害率と正味事業費率を合わせたコンバインド・レシオは、前年同期に比べ2.4ポイント低下し、81.8%となりました。

スライド22をご覧ください。

単体ソルベンシー・マージン比率



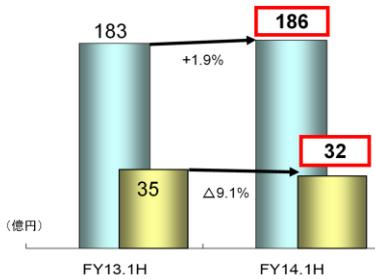
単体ソルベンシー・マージン比率は、前年度末に比べ68.7ポイント上昇し、596.3%となりました。

次のスライド23から、ソニー銀行の業績についてご説明いたします。

ソニー銀行 業績ハイライト(連結・単体)



□ 連結経常収益 □ 連結経常利益



<連結>
 ◆ 経常収益は、債券関連取引に係る収益の増加などにより、前年度に比べ増収。経常利益は、経常収益が増収であったものの、為替相場の変動が大きかった前年同期に比べ顧客の外貨取引が伸びなかったこと、営業経費が増加したことなどにより、前年同期に比べ減益。

<銀行単体>
 ◆ 業務粗利益・業務純益は、連結同様、顧客の外貨取引減少を主に減少。
 ・ 資金運用収支は、市場金利低下により主に有価証券運用に関わる利息収支が減少したことから、減少。
 ・ 役員取引等収支は、預信関連手数料収入の減少やATM利用手数料の支払い増加などにより、減少。
 ・ その他業務収支は、顧客の外貨取引が伸びなかったものの、債券関連増益が増加したことから、増加。

<連結>

| (億円) | FY13.1H | FY14.1H | 前年同期比 | |
|---------|---------|---------|-------|-------|
| 連結経常収益 | 183 | 186 | +3 | +1.9% |
| 連結経常利益 | 35 | 32 | △3 | △9.1% |
| 連結中間純利益 | 22 | 20 | △1 | △8.8% |

<銀行単体>

| (億円) | FY13.1H | FY14.1H | 前年同期比 | |
|---------|---------|---------|-------|--------|
| 経常収益 | 170 | 173 | +2 | +1.4% |
| 業務粗利益 | 110 | 106 | △3 | △3.2% |
| 資金運用収支 | 88 | 82 | △5 | △6.2% |
| 役員取引等収支 | △1 | △3 | △1 | — |
| その他業務収支 | 23 | 26 | +3 | +13.7% |
| 営業経費 | 72 | 75 | +2 | +3.6% |
| 業務純益 | 37 | 31 | △6 | △17.4% |
| 経常利益 | 36 | 32 | △4 | △11.9% |
| 中間純利益 | 23 | 20 | △2 | △10.3% |

| (億円) | 14.3末 | 14.9末 | 前年度末比 | |
|--------------|--------|--------|-------|--------|
| 純資産額 | 727 | 740 | +12 | +1.7% |
| その他有価証券評価差額金 | 72 | 63 | △8 | △12.2% |
| 総資産額 | 20,567 | 19,962 | △604 | △2.9% |

※当年度より、有価証券の金利リスクヘッジに係るコストの計上科目を変更しました。そのため、前年度につきましても、当年度と同様に計上した場合の金額を記載しています。

ソニー銀行の連結経常収益は、債券関連取引に係る収益の増加などにより、前年同期比1.9%増加の186億円となりました。連結経常利益は、為替相場の変動が大きかった前年同期に比べ顧客の外貨取引が伸びなかったこと、営業経費が増加したことなどにより、前年同期比9.1%減少の32億円となりました。

ソニー銀行単体も連結同様の要因により、増収減益となりました。業務粗利益は、市場金利低下により主に有価証券運用に係る利息収支が減少した結果、資金運用収支が減少したこともあり、前年同期比3.2%減少の106億円となりました。業務純益は、前年同期に比べ17.4%減少し、31億円となりました。

スライド24では、ソニー銀行の主要業績指標を記載しております。スライド25をご覧ください。

ソニー銀行 主要業績指標(単体)①

| (億円) | 13.9末 | 14.3末 | 14.9末 | 前年度末比 | |
|--|--------|--------|---------------------|---------|-------|
| 預かり資産残高 | 19,307 | 20,075 | 19,452 | △622 | △3.1% |
| 預金 | 18,130 | 18,900 | 18,246 | △653 | △3.5% |
| 円預金 | 14,351 | 15,264 | 14,838 | △426 | △2.8% |
| 外貨預金 | 3,779 | 3,635 | 3,408 | △227 | △6.2% |
| 投資信託 | 1,176 | 1,174 | 1,205 | +30 | +2.6% |
| 貸出金残高 | 10,095 | 10,574 | 10,921 | +346 | +3.3% |
| 住宅ローン | 8,996 | 9,493 | 9,832 | +339 | +3.6% |
| その他 | 1,099 | 1,081 | 1,088 ^{*1} | +7 | +0.7% |
| 口座数 | 94万件 | 97万件 | 101万件 | +3万件 | |
| 不良債権比率 ^{*2} (金融再生法開示債権ベース) | 0.39% | 0.35% | 0.32% | △0.03pt | |
| 自己資本比率 (国内基準) ^{*3} | 11.99% | 11.72% | 11.80% | +0.08pt | |

<主な増減要因>

◆ 円預金は、低金利の継続により前年度末比で減少。

◆ 外貨預金は、為替相場の円安進行に伴う利益確定売りにより、前年度末に比べて減少。

◆ 貸出金は、住宅ローンを中心に堅調に増加。

◆ 2014年5月より開始したソニー生命のライフプランナーによる口座開設業務の取扱い効果もあり、増加。

◆ 極めて低い不良債権比率を維持

*1 うち1,032億円は法人向け

*2 不良債権(金融再生法開示債権) / 総与信額

*3 27ページの自己資本比率(国内基準)の推移ご参照

ソニー銀行 主要業績指標(単体)②

<参考> 社内管理ベース

| (億円) | FY13.1H | FY14.1H | 前年同期比 | |
|------------------------|---------|---------|-------|--------|
| 業務粗利益 | 109 | 106 | △3 | △3.3% |
| 資金収支 ¹ ① | 91 | 90 | △0 | △0.9% |
| 手数料等収支 ² ② | 4 | 0 | △4 | △97.5% |
| その他収支 ³ | 13 | 15 | +2 | +15.5% |
| コアベース業務粗利益 (A) =①+② | 96 | 90 | △5 | △5.9% |
| 営業経費等 ③ | 72 | 74 | +1 | +2.5% |
| コアベース業務純益 =(A)-③ | 24 | 16 | △7 | △31.1% |

■ 社内管理ベース

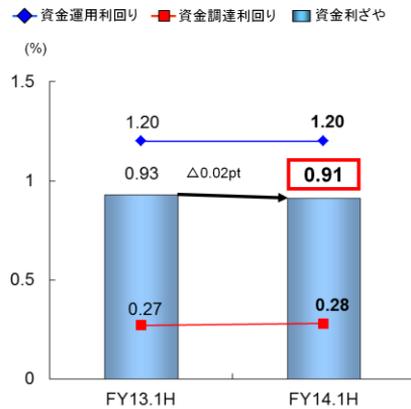
損益の実態をより適切に表すよう、財務会計ベースに以下の調整を加えたもの

- *1 資金収支 …… 資金運用収支+その他業務収支に計上されている
実質的な資金運用にかかる損益(為替スワップ収益等)
- *2 手数料等収支 … 役務取引等収支+その他業務収支に計上されている
お客さまとの外貨売買取引にかかる収益
- *3 その他収支 …… その他業務収支から*1と*2の調整分を控除したもの
(主な内容は債券関係損益およびデリバティブ関連損益)

■ コアベース

社内管理ベースのその他収支(主な内容は債券関係損益およびデリバティブ関連損益)を除いたもので、ソニー銀行の基礎的な利益を表すもの

<参考> 資金利ざや(社内管理ベース)の推移



(注) 資金利ざや = 資金運用利回り - 資金調達利回り

このスライドでは、ソニー銀行の本業における収益力をより適切にご理解いただくために、社内管理ベースの業務粗利益の内訳についてご説明いたします。

(左側のテーブル)

資金収支は、市場金利低下により主に有価証券運用に係る利息収支が減少したものの、外貨運用にかかる資金収益が改善し、前年同期比横ばいの90億円となりました。手数料等収支は、顧客の外貨取引減少に伴い手数料収入が減少したことから、4億円の減少となりました。

その結果、コアベース業務粗利益は、前年同期に比べ5億円減少の90億円、コアベース業務純益も7億円減少の16億円となりました。

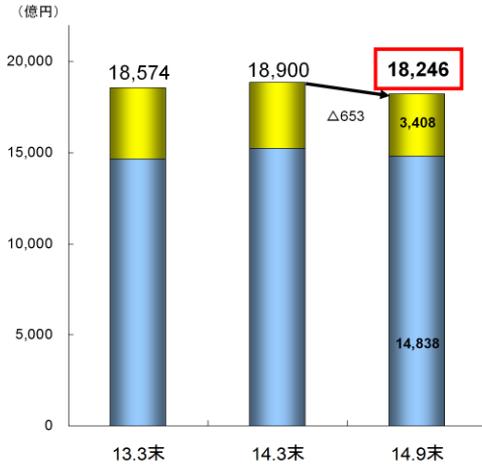
(右側のグラフ)

棒グラフで示しております資金利ざやは0.91%となり、一定の利ざやを確保しております。

スライド26をご覧ください。

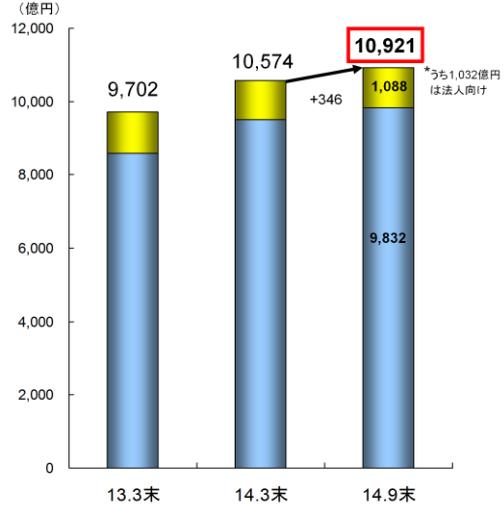
預金残高

■円預金 ■外貨預金



貸出金残高

■住宅ローン ■その他



業容の推移について、前年度末からの増減をご説明いたします。

(左側のグラフ)

預金残高は前年度末に比べ653億円減少し、1兆8,246億円となりました。うち、円預金の残高は、低金利の継続により、前年度末比426億円減少の1兆4,838億円となりました。また、外貨預金の残高は、為替相場の円安進行に伴う利益確定売りにより、前年度末比227億円減少の3,408億円となりました。

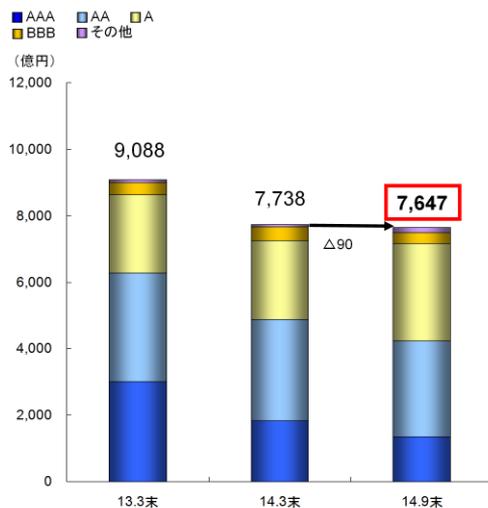
(右側のグラフ)

貸出金残高については、住宅ローンを中心に堅調に増加し、前年度末に比べ346億円増加の1兆921億円となりました。

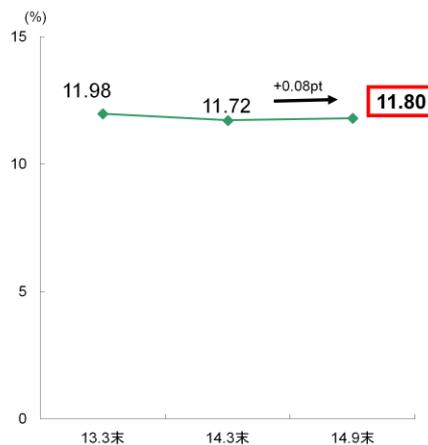
スライド27をご覧ください。

ソニー銀行の業績(単体)②

格付別の有価証券残高の推移



自己資本比率(国内基準)の推移



(注)平成18年(2006年)金融庁告示第19号「銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当かどうかを判断するための基準」に基づき算出している。なお、2014年3月末よりパーセルⅢベースへ移行。

(左側のグラフ)

有価証券残高は、前年度末に比べ90億円減少し、7,647億円となりました。引き続き、高格付の債券を中心に運用しております。

(右側のグラフ)

自己資本比率は、11.80%となりました。前年度末比0.08ポイントの上昇と、引き続き健全な財務基盤を維持しております。

以上で、各社の個別業績のご説明を終わります。続きましてスライド29をご覧ください。

2014年度連結業績予想

2014年度連結業績予想

損保事業は通期見通しを上方修正するも、
連結業績予想については2014年5月14日に公表した数値から変更なし

| (億円) | FY13 (通期実績) | FY14 (通期予想) | 前年度比 | FY14.1H (中間期実績) | 進捗率 |
|----------|-----------------------|----------------|---------------|--------------------|-------------|
| 連結経常収益 | 13,204 ^(*) | 11,910 | △9.8% | 6,430 | 54.0% |
| うち生命保険事業 | 11,966 | 10,619 | △11.3% | 5,794 | 54.6% |
| うち損害保険事業 | 898 | 924⇒930 | +2.8%⇒+3.5% | 464 | 50.2%⇒49.9% |
| うち銀行事業 | 364 ^(*) | 366 | +0.3% | 186 | 51.0% |
| 連結経常利益 | 761 | 770 | +1.1% | 469 | 61.0% |
| うち生命保険事業 | 672 | 674 | +0.2% | 401 | 59.6% |
| うち損害保険事業 | 30 | 39⇒45 | +29.8%⇒+49.8% | 34 | 88.1%⇒76.4% |
| うち銀行事業 | 56 | 53 | △6.0% | 32 | 61.7% |
| 連結当期純利益 | 405 | 490 | +21.0% | 311 | 63.6% |

■生命保険事業

当上半期の業績は期初の想定を上回りましたが、2014年10月以降の市場変動によるリスクを勘案の上、現時点において、通期見通しは変更しません。

■損害保険事業

経常収益は、下半期も主力の自動車保険の収入が堅調に推移することが見込まれるため、通期見通しを引き上げました。
経常利益は、下半期に事業費の増加などが見込まれるものの、引き続き損害率の低下が見込まれることから、通期見通しを引き上げました。

■銀行事業

当上半期の業績は、債券関連取引に係る収益増加などにより期初の想定を上回りましたが、足もとのビジネスの状況や市場環境を勘案し、現時点において、通期見通しは変更しません。

(*) 当年度より、銀行事業のヘッジ取引にかかる経常収益と経常費用の計上方法の変更を行ったことにより、前年度の経常収益についても遡及修正しております。
この結果、前年度の連結および銀行事業の経常収益を修正しております。

2014年度上期業績は想定を上回り、損保事業では通期見通しを上方修正しておりますが、10月以降の市場変動によるリスクを勘案のうえ、現時点においては、連結数値については2014年5月14日に公表した数値から変更していません。

スライド31をご覧ください。

ソニー生命の2014年9月末MCEV および経済価値ベースのリスク量

2014年9月末のMCEVの計算の妥当性については第三者の検証を受けていないことに十分ご注意ください。
また、2014年9月末については、一部簡易な計算を実施しております。

ソニー生命の2014年9月末MCEV

| (億円) | 14.3末 | 14.6末 | 14.9末 | 増減 対14.3末 | 増減 対14.6末 |
|-------------|--------|--------|---------------|--------------|--------------|
| MCEV | 12,213 | 12,600 | 13,131 | +918 | +531 |
| 修正純資産 | 7,221 | 7,584 | 8,334 | +1,113 | +751 |
| 保有契約価値 | 4,991 | 5,017 | 4,797 | △195 | △220 |

| (億円) | 14.3末 | 14.6末 | 14.9末 |
|----------------|------------|-----------|------------------|
| 新契約価値 | 552 (12カ月) | 169 (3カ月) | 303 (6カ月) |
| 新契約マージン | 5.2% | 5.5% | 5.1% |

(注) 新契約マージンは「新契約価値 / 収入保険料現価」です。

(注) 2014年6月末、9月末の計算は、2014年3月末の前提条件から経済前提と解約・失効率をアップデート。

◆ MCEV増減要因

- ・2014年6月末に比べ、新契約の獲得、インフレ率の低下、株価の上昇などにより、531億円増加。
- ・2014年3月末に比べ、新契約の獲得、円金利の形状変化、株価の上昇などにより、918億円増加。

◆ 新契約価値

- ・新契約価値は、円金利が低下する中、好調な新契約業績により、303億円(年換算606億円)を計上。

◆ 新契約マージン

- ・2014年6月末に比べ、主に円金利の低下により、0.4%低下。
- ・2014年3月末に比べ、一時払養老保険や料率改定前契約の影響がなくなったことによる上昇要因と、円金利の低下による低下要因が相殺し、ほぼ同水準。

*国債利回りの推移については、参考情報P.42をご覧ください。

ソニー生命の2014年9月末のMCEVは、1兆3,131億円となりました。

2014年6月末に比べ、新契約の獲得や、インフレ率の低下、株価の上昇などにより531億円増加しました。

新契約価値については、2014年3月末の年間(12カ月) 552億円、2014年6月末(3カ月)の169億円に対し、2014年9月末は、円金利が低下する中、好調な新契約業績により、6カ月間で303億円(年換算606億円)となりました。また、新契約マージンは、2014年3月末の5.2%、2014年6月末の5.5%に対し、2014年9月末は5.1%となりました。2014年6月末からの低下は、主に円金利の低下によるものです。

次に、経済価値ベースのリスク量について、ご説明いたします。次のスライドをご覧ください。

ソニー生命の2014年9月末経済価値ベースのリスク量

| (億円) | 14.3末 | 14.6末 | 14.9末 |
|--------------|--------|--------|--------|
| 保険リスク | 6,545 | 6,639 | 6,733 |
| 市場関連リスク | 2,400 | 2,650 | 2,790 |
| うち金利リスク* | 1,809 | 2,028 | 2,066 |
| オペレーショナルリスク | 263 | 261 | 264 |
| カウンターパーティリスク | 13 | 17 | 14 |
| 分散効果 | △2,578 | △2,693 | △2,764 |
| 経済価値ベースのリスク量 | 6,643 | 6,873 | 7,037 |

*ただし、市場関連リスク内での分散効果考慮前

| (億円) | 14.3末 | 14.6末 | 14.9末 |
|------|--------|--------|--------|
| MCEV | 12,213 | 12,600 | 13,131 |

◆ 市場関連リスクを抑制することで、資本の十分性を確保。

(注) 経済価値ベースのリスク量は、ソニー生命が保有する各種リスク(保険リスク、市場関連リスク等)を、市場整合的な方法で総合的に評価したリスク総量です。

(注) 経済価値ベースのリスク量の測定においては、1年VaR99.5%水準とし、EUソルベンシーII(QIS5)の標準モデルを参考にした内部モデルを採用しています。

(注) 2014年6月末、9月末の計算は、2014年3月末の前提条件から経済前提と解約・失効率をアップデート。

2014年9月末の経済価値ベースのリスク量は、7,037億円となり、うち保険リスクは6,733億円、市場関連リスクは2,790億円でした。

経済価値ベースのリスク量は、保有契約の増加などにより、2014年6月末に比べて増加しました。

経済価値ベースの自己資本に相当するMCEVはリスク量を上回り、引き続き高い健全性を維持しております。

以上で説明を終了いたします。

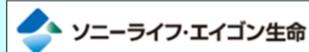
ありがとうございました。

参考情報

その他トピックス①

ソニーライフ・エイゴン生命の概要

営業開始： 2009年12月1日
資本金： 260億円(資本準備金130億円を含む)
株主： ソニー生命 50%、エイゴン・インターナショナルB.V. 50%
取扱商品： 変額個人年金保険
販売チャネル： ライフプランナー、および銀行等(計20社)



SA Reinsurance の概要

設立日： 2009年10月29日
資本金： 110億円
株主： ソニー生命 50%、エイゴン・インターナショナルB.V. 50%
事業内容： 再保険業

注)ソニーライフ・エイゴン生命とSA Reinsuranceは、ソニー生命とエイゴン・インターナショナルの折半出資(50:50)による合弁会社であり、持分法適用関連会社です。

*2014年11月14日現在

ソニー銀行における、ソニー生命による住宅ローンの取扱い状況

- 2014年9月末の住宅ローン残高の24%
2014年度中間期の住宅ローン新規融資実行金額の17%
- ※銀行代理業務取扱い開始： 2008年1月



ソニー損保における、ソニー生命による自動車保険取扱い状況

- 2014年度中間期の新規自動車保険契約件数の5%程度
- ※自動車保険取扱い開始： 2001年5月



<2014年度第2四半期以降の主な取組み>

- | | | |
|--------------|----|---|
| 2014年 7月 9日 | 生保 | 北京駐在員事務所の閉鎖 |
| 2014年 7月 28日 | 生保 | ソニー株式会社本社屋敷地取得で同社と合意 |
| 2014年 8月 1日 | 銀行 | ソニー不動産株式会社との提携住宅ローン開始 |
| 2014年 8月 6日 | 銀行 | 株式会社イオン銀行とのATM提携開始 |
| 2014年 8月 15日 | 銀行 | 自己資金の割合に応じた住宅ローンの金利設定開始 |
| 2014年10月 1日 | 介護 | ソニー・ライフケアグループ初の有料老人ホーム新規開設を発表 <small>※2016年春、東京都世田谷区祖師谷に開設予定</small> |
| 2014年10月 2日 | 生保 | 【新商品】「生前給付終身保険(生活保障型)」および「生活保障特則 14」の発売 |
| 2014年11月13日 | 損保 | 【新商品】自動車保険「やさしい運転キャッシュバック型」の発売を発表 <small>※2015年2月中旬に発売開始</small> |

有価証券の時価情報

売買目的有価証券以外の有価証券の時価情報のうち時価のあるもの

(億円)

| 区 分 | 13.3末 | | | 14.3末 | | | 14.9末 | | |
|-----------|--------|--------|-------|--------|--------|-------|--------|--------|-------|
| | 帳簿価額 | 時価 | 差損益 | 帳簿価額 | 時価 | 差損益 | 帳簿価額 | 時価 | 差損益 |
| 満期保有目的の債券 | 38,742 | 44,259 | 5,517 | 44,096 | 48,399 | 4,303 | 46,297 | 51,529 | 5,231 |
| その他有価証券 | 9,559 | 10,792 | 1,232 | 10,655 | 11,898 | 1,243 | 10,441 | 11,872 | 1,431 |
| 公社債 | 9,253 | 10,369 | 1,116 | 10,359 | 11,467 | 1,108 | 10,128 | 11,391 | 1,263 |
| 株式 | 147 | 209 | 62 | 122 | 212 | 89 | 125 | 241 | 115 |
| 外国証券 | 144 | 186 | 42 | 158 | 194 | 35 | 180 | 226 | 46 |
| その他の証券 | 14 | 26 | 11 | 14 | 25 | 10 | 6 | 13 | 6 |
| 合 計 | 48,302 | 55,052 | 6,750 | 54,751 | 60,298 | 5,547 | 56,738 | 63,401 | 6,662 |

(注) 上表の満期保有目的の債券には、デリバティブを組み込んだ金融商品(元本確保型クーポン日経平均連動30年債)が含まれております。各期における金額は以下の通りです。

2013年3月末時点 帳簿価額433億円 時価522億円 差益88億円
 2014年3月末時点 帳簿価額438億円 時価560億円 差益122億円
 2014年9月末時点 帳簿価額440億円 時価574億円 差益133億円

売買目的有価証券の評価損益

(億円)

| 13.3末 | | 14.3末 | | 14.9末 | |
|-------|--------|-------|--------|-------|--------|
| BS計上額 | PL評価損益 | BS計上額 | PL評価損益 | BS計上額 | PL評価損益 |
| - | - | - | - | 20 | 0 |

(注) 本表には、金銭の信託等の売買目的有価証券を含んでいます。

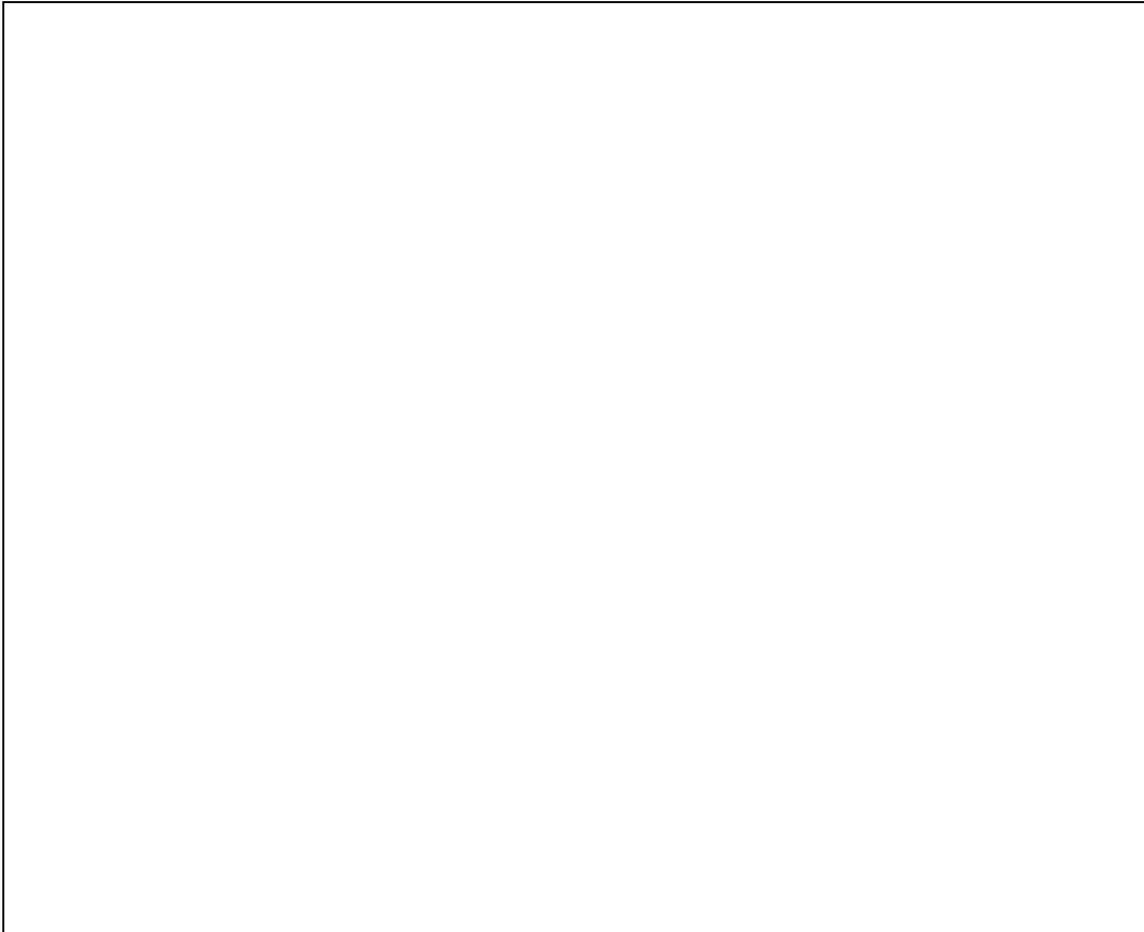
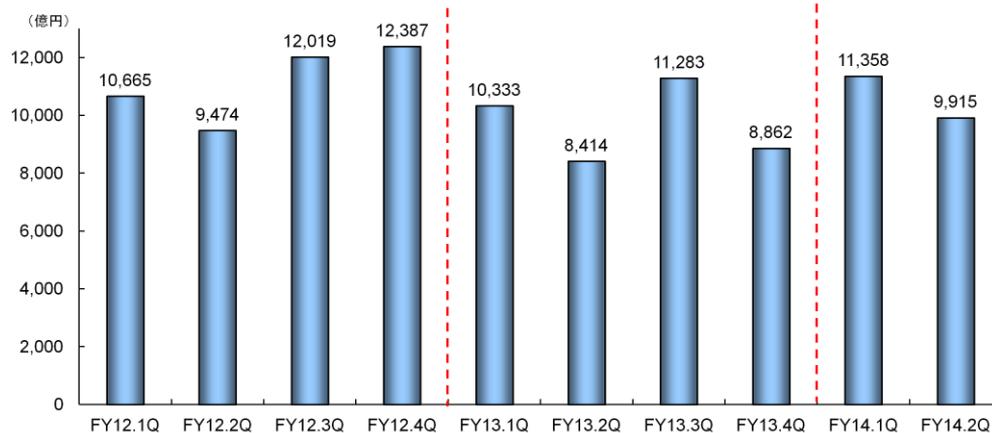
ソニー生命の利配収入内訳

(百万円)

| | FY13.1H | FY14.1H | 前年同期比 |
|--------|---------|---------|---------|
| 現預金 | 0 | 0 | +12.2% |
| 公社債 | 47,874 | 52,735 | +10.2% |
| 株式 | 198 | 221 | +11.7% |
| 外国証券 | 2,868 | 4,503 | +57.0% |
| その他の証券 | 47 | 278 | +491.1% |
| 貸付 | 2,820 | 2,937 | +4.1% |
| 不動産 | 5,145 | 5,170 | +0.5% |
| その他 | 17 | 32 | +87.9% |
| 合計 | 58,971 | 65,879 | +11.7% |

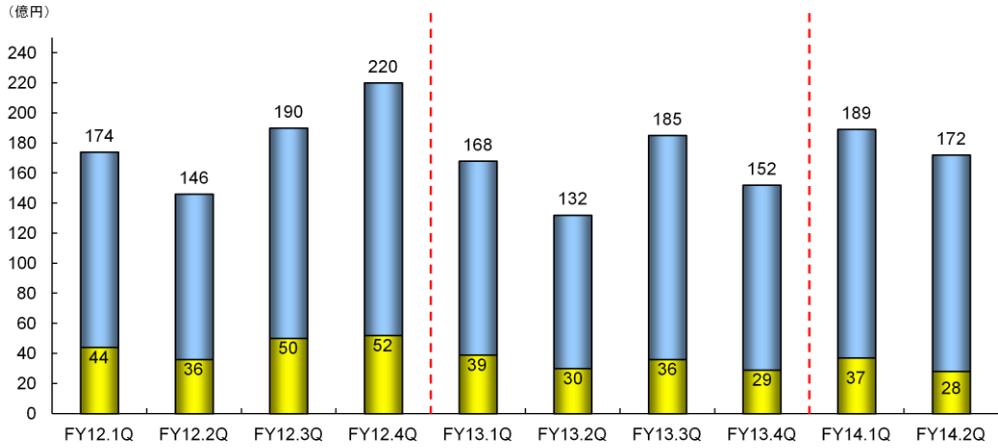
ソニー生命の新契約高の四半期推移

新契約高の四半期(3カ月)ごとの推移



新契約年換算保険料の四半期(3カ月)ごとの推移

■ 新契約年換算保険料 ■ うち、第三分野



経済価値ベースのリスクの測定方法①

■ 市場関連リスク^{注1}

| | ソニー生命 | (参考) EUソルベンシー II (QIS5) |
|--|---|--|
| 金利リスク 右のShockを与えた時の、経済価値純資産の変動以下同じ。 | 年限と通貨ごとに異なる金利の変化率を設定。但し、円金利は主成分分析を用いて、3つの変動要因。(パラレルシフト、カーブのフラット化、曲がり)に分解して計測。 (例) 円30年における、それぞれの変化率は、▲34%、▲28%、▲7%。 | 年限ごとに異なる金利の変化率を設定。但し、最低下落幅は1% (例) 円30年における、変化率は▲30%。 |
| 株式リスク | 上場株式 45% その他証券 70% | Global 30% Others 40% ^{注2} |
| 不動産投資リスク | 不動産 25% | 不動産 25% |
| 信用リスク | 信用リスク=(時価)×(格付毎のリスク係数)×デレレーション尚、デレレーションには格付けにより、キャップとフロアーがある。 (例) A格:リスク係数(1.4%)、キャップ(23)、フロアー(1) | 同左 |
| 為替リスク | 不利な方向へ30%変化。 | 不利な方向へ25%変化。 |

注1 2014年9月末現在、主要な項目。

注2 標準リスク係数はGlobal:39%/Other:49%。symmetric adjustment(過去一定期間の株価インデックスの平均値を基準として±10%以内で加える調整)が適用され、QIS5試行時点(2009年12月末)は30%/40%。

経済価値ベースのリスクの測定方法②

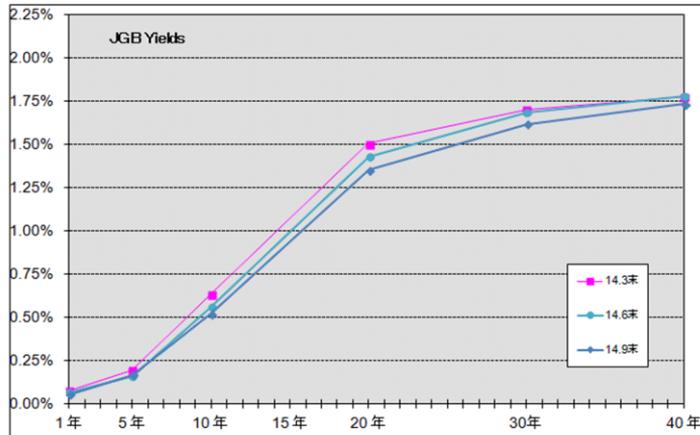
■ 保険リスク^{注1}

| | ソニー生命 | (参考) EUソルベンシー II (QIS5) |
|--------|---|---|
| 死亡リスク | 各経過年の死亡率が15%増加。 | 同左 |
| 生存リスク | 各経過年の死亡率が20%減少。 | 同左 |
| 解約リスク | <ul style="list-style-type: none"> ・各経過年の解約率が50%増加。 ・各経過年の解約率が50%減少。 ・解約返戻金が最良推定負債を上回る契約の30%が、直ちに解約。 これらの最大値 ^{注2} 。 | <ul style="list-style-type: none"> ・Life区分50%増加、Health区分20%増加 ・Life区分50%減少、Health区分20%減少 ・解約返戻金が最良推定負債を上回る契約の30%(団体年金等は70%)が、直ちに解約。 これらの最大値。 |
| 事業費リスク | 各経過年の事業費が10%増加。 インフレ率が1%上昇。 | 同左 |
| 疾病リスク | 発生率が初年度35%増加、次年度以降25%増加。 | 発生率が初年度35%増加、次年度以降25%増加。 回復率が20%減少。 |

注1 2014年9月末現在、主要な項目。

注2 ソニー生命は個別契約毎の大小比較を実施。

国債利回り



| 国債利回り | 14.3末 | 14.6末 | 14.9末 | 14.3末 →14.9末 | 14.6末 →14.9末 |
|-------|-------|-------|-------|-----------------|-----------------|
| 1年 | 0.08% | 0.07% | 0.06% | -0.02% | -0.01% |
| 5年 | 0.20% | 0.16% | 0.17% | -0.03% | 0.01% |
| 10年 | 0.64% | 0.56% | 0.52% | -0.11% | -0.04% |
| 20年 | 1.50% | 1.43% | 1.35% | -0.15% | -0.08% |
| 30年 | 1.70% | 1.68% | 1.62% | -0.08% | -0.07% |
| 40年 | 1.78% | 1.78% | 1.73% | -0.04% | -0.04% |



お問い合わせ先：
ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社
広報・IR部
TEL:03-5785-1074

